

<原 著>

特別支援学校用教科書『くらしに役立つ 社会』の分析(Ⅱ): 歴史的内容—学習困難の研究(3)

横山 千夏*・渡邊 巧**・能見 一修*・岡田 了祐**
若原 崇史*・宛 彪**・池野 範男***

本研究は、本来の教育の理念を回復するために、特別支援教育の使命と理念である、“誰もがわかる、誰もが学ぶことができる”ことに学び、教育の新たな創造をめざすための予備的研究である。本研究では、つまりは誰もが持っている教育の状態であり、特別に支援が必要な子どもだけではない。すべての子どもがつまり可能性を持っている、と考え、学校の授業や活動においてすべての子どもたちが支障なく学ぶことができる状態を作り出すことが必要だろう、と仮定し、研究を進めている。

本稿は、第3稿として、研究の目的と仮説を確認したのち、歴史的内容に焦点を当て、“特別支援学校”用社会教科書(『くらしに役立つ 社会』東洋館出版社, 2007, 以下、本教科書と略す)を“通常”学校用社会科歴史教科書と比較し、研究仮説の妥当性を検討する。

考察の結果、特定の視点による現在と結び付けた歴史の学習と、独立し、網羅的に配列した歴史の学習という歴史学習の違いが明らかになった。歴史の学習には基本的に、学習者の現在の生活と時間的な隔りがある。その隔りが歴史的内容の抽象性を高め、学習困難を生む可能性がある。しかし、本教科書のように、歴史的内容を現在学習者が生活している場所(地理)や社会のシステム(公民)と関連付けることによって、歴史的内容の抽象性を緩和するように工夫することができる。

キーワード：特別支援学校用教科書, 社会科教育, 歴史, 学習困難

I. 問題の所在

本研究のねらいは、特別支援教育の使命と理念を再考することによって、“誰もがわかる、誰もが学ぶことができる”という近代教育が掲げてきた、本来の教育の理念を取り戻すことである。このねらいにもとづき、特別支援教育と教科教育の間に作られていた溝を埋めること、また、相互に本来の教育の理念の実現を目指すことで、学校教育総体を新たに作り直すことの基盤づくりを意図している。

本稿では、特別支援学校用教科書(『くらしに役立つ 社会』, 以下では「本教科書」とする)の歴史的内容に焦点を当て、通常学校用社会科教科書(『新しい社会 歴史』)との比較を交えながら、その構成と構造の特質を解明し、特別支援学校用教科書がどのよ

うな学習困難を想定し、どのような克服策を準備しているのかを解明していく。その際、昨年稿(池野・宛・岡田・渡邊・能見・横山・若原, 2014)で提出した、以下の社会科学学習の困難に関する仮説を検討する。

- (1) 容易性
社会に関する情報は、その情報がある形やイメージ、ことばに統合したり構成したりすることが、容易であると、情報処理はうまくできる。
- (2) 決断性
社会に関する情報は多様に与えられるが、ひとは、それを特定のものに制限し特定の見えに決定することで、確実化を図る。
- (3) 行為随伴性
社会に関する情報に関して、ひとは、情報操作するとき、動作、行動を伴っている。
- (4) 独立性
社会に関する情報は、それぞれ、独立した動作、行動によって、多様なイメージや概念を作り出すことができる。

*広島大学大学院教育学研究科博士課程前期科学文化教育専攻社会認識教育学専修

**広島大学大学院教育学研究科博士課程後期文化教育開発専攻社会認識教育学専修

***広島大学大学院教育学研究科社会認識教育学講座

II. 歴史的内容に焦点を当てた単元構成の比較

1. 通常学校用社会科教科書との比較

本稿では、本教科書のうち、歴史的内容を含む単元である第4章の「日本の地理と歴史」を取り上げ、通常学校用社会科教科書『新しい社会 歴史』と比較していく。第4章の「日本の地理と歴史」は、本教科書の最後に位置づけられている章である（Table 1の網掛け部）。第4章の「1. 地図の見方」は地理的内容、「2. 歴史の流れと年代の表し方」は歴史的内容、「3. 日本各地の地理・歴史」は地理的内容と歴史的内容、「4. 世界の中の日本」は歴史的内容と公民的内容で構成されている小単元である。「1. 地図の見方」と「2. 歴史の流れと年代の表し方」で地理や歴史の学習に必要な知識・技能を学習させ、その後「3. 日本各地の地理・歴史」と「4. 世界の中の日本」で具体的な地理的・歴史的・公民的内容を学習させるという流れになっている。つまり、第4章は社会科の地理的・歴史的・公民的内容の全てが用意されている章であるといえる。

Table 2は、本教科書の第4章と、通常学校用社会科教科書『新しい社会 歴史』の単元構成を対比させたものである。以下で、本教科書の第4章のうち、歴史的内容を含む小単元の概要を明らかにし、通常学校用社会科教科書『新しい社会 歴史』との比較を行う。

①「2. 歴史の流れと年代の表し方」

「2. 歴史の流れと年代の表し方」は、「(1) 年代の表し方」と「(2) 時代の表し方」の2つの見出しで構成され、本教科書の2ページ分が割かれている。「(1) 年代の表し方」では、「西暦」、「世紀」、「年号」の3つが説明されている。「(2) 時代の表し方」では、「飛鳥時代」や「奈良時代」といった政治の中心地に注目した時代区分と、「原始」や「古代」といった社会のしくみに注目した時代区分の2つが説明されている。

『新しい社会 歴史』において、同様の内容を扱っているのは第1章「歴史のとらえ方」である。この章では、本教科書で扱われている年代や時代の表し方が同様に2ページ分の紙面を割いて扱われている。

年代や時代の表し方は、どちらの教科書においても歴史的内容の中で一番初めに配列されており、歴史的内容の学習の導入的な位置づけになっているといえる。

②「3. 日本各地の地理・歴史」

「3. 日本各地の地理・歴史」は、「九州地方」・「中国地方」・「四国地方」・「近畿地方」・「中部地方」・「関東地方」・「東北地方」・「北海道地方」の8つの見出しで構成されている。各地方4ページずつ、計32ページが割かれている。こうした構成に加え、冒頭には「ここからは、地方ごとに、地理や歴史、各県の様子を紹介します。自分の住んでいる県や、行ってみたい地方について調べてみましょう。」¹⁾という導入文が示されている。このことから、本小単元は、地方ごと・県ご

Table 1 『くらしに役立つ 社会』の目次

単元名	小単元名
序章 「現代社会と私たち」 pp.5-8	
第1章 「私たちのくらしと社会」 pp.9-26	1. 国や社会のきまり 2. 国や社会のしくみ 3. 私たちのくらしを支える社会のしくみ
第2章 「私たちのくらしと公共施設」 pp.27-50	1. 公共の交通機関 2. 金融機関（銀行）や郵便局の利用 3. 役所（市・区役所、町・村役場）のできる手続き 4. 警察・消防の動き 5. 病院や保健所の役割 6. 病院や保健所の役割 7. 専門店、デパート、劇場、博物館などの利用 8. 職業や生活の相談と支援
第3章 「私たちのくらしと経済」 pp.51-68	1. 生産から消費への流れ～流通のしくみ 2. いろいろな仕事 3. 経済活動を支える社会のしくみ 4. 私たちの消費生活
第4章 「日本の地理と歴史」 pp.69-115	1. 地図の見方 2. 歴史の流れと年代の表し方 3. 日本各地の地理・歴史 4. 世界の中の日本

Table 2 単元構成の対比表

くらしに役立つ 社会	新しい社会 歴史
第4章 日本の地理と歴史 pp.69-115	第1章 歴史のとらえ方 pp.5-16
1. 地図の見方 pp.70-74	第2章 古代までの日本 pp.17-56
(1)地図を見るとききまり	1節 文明のおこりと日本の成り立ち pp.20-33
(2)地図の種類	2節 古代国家の歩みと東アジア世界 pp.34-56
2. 歴史の流れと年代の表し方 pp.75-76	第3章 中世の日本 pp.57-88
(1)年代の表し方	1節 武士の台頭と鎌倉幕府 pp.60-67
(2)時代の表し方	2節 東アジア世界とのかかわりと社会の変動 pp.68-88
3. 日本各地の地理・歴史 pp.77-109	第4章 近世の日本 pp.89-130
九州地方	1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 pp.92-103
中国地方	2節 江戸幕府の成立と鎖国 pp.104-111
四国地方	3節 産業の発展と幕府政治の動き pp.112-130
近畿地方	第5章 開国と近代日本の歩み pp.131-180
中部地方	1節 欧米の進出と日本の開国 pp.134-145
関東地方	2節 明治維新 pp.146-159
東北地方	3節 日清・日露戦争と近代産業 pp.160-180
北海道地方	第6章 二度の世界大戦と日本 pp.181-222
4. 世界の中の日本 pp.110-115	1節 第一次世界大戦と日本 pp.184-197
(1)歴史の中のかかわり	2節 世界恐慌と日本の中国侵略 pp.198-205
(2)国際社会のしくみ	3節 第二次世界大戦と日本 pp.206-222
(3)国際社会のきまり	第7章 現代の日本と世界 pp.223-253
(4)物の交流	1節 戦後日本の発展と国際社会 pp.226-237
(5)外国との交流	2節 新たな時代の日本と世界 pp.238-253

※本教科書については、歴史的内容を含む箇所に網掛けをしている。

とに地理的・歴史的内容をまとめたものであることがわかる。ここでは、地方や県といった地理的な枠組みが前提となっており、その枠組みに合わせて歴史的内容が選択されているのである。つまり、本単元における歴史的内容は、地方や県の特徴を観光パンフレットのように説明するための1つの要素として用意されているといえる。

それに対して『新しい社会 歴史』は、全体を通して歴史的内容そのものが学習対象となっている。つまり、地方や県に関する出来事や人物といった各事象は、日本の歴史を説明するための要素として用意されているのである。

③「4. 世界の中の日本」

「4. 世界の中の日本」は、「(1) 歴史の中のかかわり」、「(2) 国際社会のしくみ」、「(3) 国際社会のきまり」、「(4) 物の交流」、「(5) 外国との交流」といった5つの見出しで構成されている。

このうち、歴史的内容を扱っているのは「(1) 歴史の中のかかわり」と「(2) 国際社会のしくみ」である。これらには約3ページが割かれている。それに続く「(3) 国際社会のきまり」、「(4) 物の交流」、「(5) 外国との交流」では、公民的内容が扱われている。これらには約4ページが割かれている。

「(1) 歴史の中のかかわり」では、8～20世紀の日本の歴史が年代順に配列され、「(2) 国際社会のしくみ」

でも、それに続く形で国際連合の成立過程が書かれている。こうした構成は、地方や県の特徴を理解するために、歴史的内容を活用している「3. 日本各地の地理・歴史」とは対照的である。本小単元では、歴史的内容そのものが学習対象となっている。つまり、『新しい社会 歴史』と同様に、日本の歴史を説明するために歴史的内容が用意されている小単元であるといえる。

また、歴史的内容の配列も『新しい社会 歴史』と同様に年代順である。しかし、『新しい社会 歴史』が日本の歴史を年代順かつ網羅的に選択・配列しているのに対し、本教科書の「4. 世界の中の日本」は、年代順ではあるものの、網羅的ではなく、理解させたい視点に絞って選んだ歴史を配列している。これは、『新しい社会 歴史』が全253ページで日本の歴史を描いているのに対し、「4. 世界の中の日本」における歴史的内容が、わずかに約3ページで編成されていることから明らかである。

では、「4. 世界の中の日本」に選択・配列されている歴史的内容は、どういった視点で選ばれているのだろうか。それは、「4. 世界の中の日本」が実際に取り上げている内容から説明できる。Table 3に、各見出しとそこで扱われている内容を示した。

「(1) 歴史の中のかかわり」では、「8～9世紀」、「13世紀」、「16世紀」、「17世紀」、「19世紀」、「20世紀」という6つの区分ごとに、日本の歴史がまとめられてい

る。ここで扱われている歴史的内容は、基本的に日本と外国とのかかわりについての歴史である。例えば、「13世紀」については、以下のように記述されている。

この頃は鎌倉時代とよばれる社会で、武士による政治が行われていました。中国とは正式な交流はありませんでしたが、貿易はさかんで、商人たちが活発に行き来していました。この時代、新しい仏教も紹介されました。

13世紀後半、当時の中国（元）から2度の侵入（元寇）を受けましたが、九州の武士を中心にこれを防ぎました²⁾。

(p.110, 傍線部は、筆者)

傍線部にみられるように、限られたページ数の中で、正式な貿易がなかったことに触れ、このような社会状況でも私的な交流はおこなわれ、日本に影響を与えたことが記述されている。

続く「(2) 国際社会のしくみ」では、国際連合成立の歴史が扱われており、「(3) 国際社会のきまり」、「(4) 物の交流」、「(5) 外国との交流」では、外国とのかかわりに関する公民的内容が扱われている。このことから、「4. 世界の中の日本」の全体を通して、外国とのかかわりに関する内容が選択されていることがわかる。

また、内容配列が公民→歴史ではなく、歴史→公民という順になっていることと、公民的内容として取り上げられているものが、本教科書の序章から第3章で既に触れている内容を発展させたものであることから、「4. 世界の中の日本」における歴史的内容の役割が推測できる。その役割とは、公民的内容に、外国とのかかわりという新たな視点を与え、学習を発展させることである。

Table 3に示したように、「4. 世界の中の日本」では、「国際法」、「貿易」、「為替相場」、「外国との交通・通信」といった公民的内容が取り上げられている。これらはすべて、本教科書の序章から第3章までで取り上げてきた公民的内容に外国とのかかわりという視点

を加えたものである。「為替」を例にみていくと、第2章では、「離れた人同士のお金のやりとりのなかだち³⁾」という銀行の仕事の一つとして、「為替」が説明されている。それに対し、「4. 世界の中の日本」では、「国どうしの通貨の交換比率⁴⁾」として、「為替相場」が説明されている。第2章では、外国とのかかわりという視点からの説明はなされていない。一方、「4. 世界の中の日本」では、外国とのかかわりという視点からの説明がなされている。「国際法」や「貿易」、「外国との交通・通信」に関しても、同様のことがいえる。

つまり、本小單元における歴史的内容は、外国とのかかわりという視点から選択・配列されており、後に続く公民的内容に向けて、新たな視点を獲得するための学習が意図されていると考えられる。

2. 相違の指摘

以上、歴史的内容を含む本教科書の第4章「日本の地理と歴史」の構成を、通常学校用社会科教科書『新しい社会 歴史』と比較した。それにより明らかになった本教科書と『新しい社会 歴史』の違いを二点指摘する。

一点目は、歴史的内容と地理的・公民的内容との関係である。『新しい社会 歴史』が歴史的内容を地理的・公民的内容とは独立した形で教えることを前提に作られているのに対し、本教科書は歴史的内容を独立的に教えることを前提としておらず、多様な形で歴史的内容が活用されている。具体的には、「2. 歴史の流れと年代の表し方」では、歴史的内容が独立的に扱われているが、続く「3. 日本各地の地理・歴史」では、地理的内容と歴史的内容が明確に区別されず、歴史的内容が地理的内容を説明する要素の一つとして活用されている。また、最後の「4. 世界の中の日本」には、歴史的内容と公民的内容の両方が存在しているが、これらは見出しレベルで独立しており、歴史的内容から公民的内容という順番で配列されている。しかし、これらは、外国とのかかわりという視点もたされている点で共通しており、完全に独立しているわけ

Table 3 「4. 世界の中の日本」の各見出しが扱っている内容

見出し	内容
(1)歴史の中のかかわり pp.110-112	日本の外国とのかかわりの歴史 (8～20世紀)
(2)国際社会のしくみ p.112	国際連合成立の歴史
(3)国際社会のきまり pp.112-113	国際法
(4)物の交流 p.113	貿易
(5)外国との交流 pp.114-115	為替相場, 各国の通貨, 外国との交通・通信

ではない。ここでの歴史的内容は、本教科書の序章から第3章で学習してきた公民的内容に、外国とのかかわりという新たな視点を与えるための役割が期待されていると思われる。

二点目は、歴史的内容の選択・配列原理である。『新しい社会 歴史』が一貫して通史的・網羅的に歴史的内容を配列・選択しているのに対し、本教科書では通史的・網羅的な配列・選択は行われていない。たとえば、「3. 日本各地の地理・歴史」では、日本の各地方・各県の特徴を理解させるために活用できる歴史だけを選択・配列しており、「4. 世界の中の日本」では外国とのかかわりを理解させるために活用できる歴史だけを選択・配列している。

では、なぜこのような違いがあるのだろうか。まず、一点目の違いについて検討する。上述したように、本教科書の第4章は、地理的・歴史的・公民的内容の全てが含まれる章であり、歴史的内容が、独立的に、あるいは、地理的・公民的内容と関連付けて扱われていた。このような構成になっている理由は、特別支援学校学習指導要領から推測できる。特別支援学校小学部・中学部学習指導要領において、社会科の目標は、「社会の様子、働きや移り変わりについての関心と理解を深め、社会生活に必要な基礎的な能力と態度を育てる」⁵⁾ ことであると書かれている。特別支援学校高等部学習指導要領においても、ほとんど同じ目標が示されている。ここでは、地理的・歴史的・公民的内容が「社会の様子、働きや移り変わり」というまとまりで表現されており、それぞれを明確に区分して捉えているとはいえないだろう。

また、特別支援学校学習指導要領において、社会科の内容として示されているもののうち、歴史的内容に

関わるものだけを抜き出すと Table 4 のようになる。

Table 4 の傍線部「社会の移り変わり」、「社会の変化や伝統」が歴史的内容を指している部分である。ここでも、特別支援学校学習指導要領における社会科の目標と同様に、歴史的内容が他の内容と明確に区別されるのではなく、「我が国のいろいろな地域の様子や社会の移り変わり」というように、地理的内容と合わせた形で表現されている。つまり、特別支援学校教育における社会科は、目標と内容の両方において、歴史的内容が地理的・公民的内容と明確に区分されていないのである。

それに対して、『新しい社会 歴史』が準拠している中学校学習指導要領における社会科の目標は、Table 5 の通りであるが、これとは別に、地理的・歴史的・公民的内容のそれぞれに個別の目標・内容が設定されている。つまり、特別支援学校学習指導要領とは対照的に、地理的・歴史的・公民的内容を明確に区分してとらえているのである。

このように、本教科書と『新しい社会 歴史』とでは、歴史的内容のとらえかたが異なり、それが反映された結果、歴史的内容の扱い方に差異が生じているのである。

次に、二点目の違いについて検討する。本教科書が『新しい社会 歴史』のように、歴史的内容を一貫して通史的・網羅的に選択・配列していない理由は、なぜだろうか。本教科書には、各地方や各県の特徴を表す歴史や、外国とのかかわりを表す歴史といった、特定の視点で選択された歴史的内容が配列されている。各地方や各県は現在の地理であるし、外国との関係は、現在も続くものである。つまり、歴史を歴史として学ばせるのではなく、歴史を特定の視点によって、選び取り、間接的に現在と結びつけているといえる。

Table 4 特別支援学校学習指導要領の抜粋⁶⁾

段階	歴史的内容に関わるもの
中学部	(5)自分が住む地域を中心に、我が国のいろいろな地域の様子や社会の移り変わりに関心をもつ。
高等部 1段階	(5)我が国のいろいろな地域の自然や生活の様子を理解し、社会の変化や伝統に関心をもつ。
高等部 2段階	(5)地図や各種の資料などを活用し、我が国のいろいろな地域の自然や生活の様子、社会の変化や伝統を知る。

(傍線部は、筆者)

Table 5 中学校学習指導要領における社会科の目標⁷⁾

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
--

このような特徴は、本教科書が想定している学習や学習者像に起因している。本教科書は、特別支援学校教育の場で、社会生活を送る上で必要となる力を獲得させることを目指すものである。そのため、本教科書の想定する学習は、生活のための学習であり、想定する学習者は、社会生活を送ることに困難が生じかねない子どもでもある。

それに対して、『新しい社会 歴史』は、「地理的分野及び歴史的分野の基礎の上に公民的分野の学習を展開するという中学校社会科の基本的な構造」⁸⁾のうち、「歴史的分野」を担っている教科書である。ここでは、子どもが社会生活を難なく送れることが前提的に考えられている。そういった学習者像に基づき、子どもの「公民的資質の基礎」⁹⁾を培うための、学問的な歴史学習が想定されているのである。

本教科書と『新しい社会 歴史』の間で想定されている学習や学習者像が異なることについては、学習指導要領からも読み取れる。特別支援学校学習指導要領における目標は、「社会生活に必要な基礎的な能力と態度を育てる」¹⁰⁾ことである。それに対し、通常の中学校教育における最終的な目標は「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」¹¹⁾ことである。前者は、子どもが社会生活を送る上で必要となる力を養成しようとしているのに対し、後者は、国家・社会が子どもに求める力を養成しようとしているのである。前者の考え方が反映された結果、本教科書は、特定の視点から子どもの現在の生活と結びつけることのできる歴史的内容を選択し、社会生活を送る上で必要となる力の獲得に貢献することを目指すものとなっている。

3. 学習困難の想定とその手立て

以上の違いから、本教科書は以下の二つの学習困難を想定しているといえる。

一つ目は、歴史的内容を地理的・公民的内容と切り離し、独立的に理解すること、二つ目は、歴史的内容を通史的・網羅的に理解することである。これらの困難は、地理的・公民的内容と比べると、学習者の現在の実際の生活と距離があり、抽象的であるという歴史

的内容の特性に由来すると考えられる。これらの学習困難を克服するために、本教科書は、『新しい社会 歴史』とは異なる単元構成になっているのである。

本教科書は、「3. 日本各地の地理・歴史」では、歴史的内容を地理的内容と結びつけ、空間的に現代の社会とつながりを持たせ、「4. 世界の中の日本」では、歴史的内容と公民的内容を外国とのかかわりという一つの視点で結びつけ、間接的に歴史的内容に現代社会との関連を持たせている。このように歴史的内容を地理的・公民的内容と関連付けて選択・配列することで、空間的・時間的に現在とのつながりを持たせ、歴史的内容の抽象性を緩和しているのである。

また、本教科書では、「社会生活に必要な基礎的な能力と態度を育てる」ために活用できる歴史的内容だけを精選するために、各地方・各県の特徴を表す歴史という視点と外国とのつながりを表す歴史という視点が導入されている。通史的・網羅的に歴史的内容を教えるのではなく、これらの視点に絞って歴史的内容を扱うことで、学習者自身も学習の到達点（例えば、「歴史的内容を通して九州地方の特徴を理解する」など）を意識しやすくなると思われる。

さらに、本教科書の序章「現代社会と私たち」では、第4章における学習をスムーズにできるよう、歴史的内容の学習に対するフレームが提供されている。Table 6は、序章の各見出しと、その内容を示したものである。

「(1) 私たちの生活の変化」では、学習者の現在を時間軸上に位置づけ、自身の発達を考えさせている。ここでは、本教科書の学習に入る前に、現代よりも昔のことを遡る、あるいは先のことを考えるという視点が提示されている。

また、「(3) これからの社会」では、次のような記述がある。

私たちの社会は、さまざまな歴史の移り変わりを経て、今日にいたりました。その移り変わりには良い面もありましたが、良くない結果を生んだ面もありました。これからの社会が良い方向へと発展していくためには、環境問題への取組をはじめ、情報化や国際化、高齢化、男女共同参画社会、労働環境の

Table 6 序章「現代社会と私たち」の各見出しが扱っている内容

見出し	内容
(1) 私たちの生活の変化	乳幼児から老年期までの発達段階の特徴
(2) 社会参加・自立	支援・サービスを知ることの重要性
(3) これからの社会	現代社会の課題

変化などのさまざまな課題に対応することが必要です。また、このような課題が起きるしくみを知っておくことも必要です¹²⁾。

(p.7, 傍線部は、筆者)

ここでは、現在の社会が「さまざまな歴史の移り変わり」の結果であること、「これからの社会が良い方向へと発展していくために」、現代の課題に対応するとともに、「課題が起きるしくみを知っておくこと」が必要であることが示されている。この記述によって、歴史的内容を学習する意義が示されているといえる。歴史的内容を学習することで獲得できる、社会生活を送る上で必要な力とは、「これからの社会が良い方向へと発展していくために」、現代の課題に向き合っていく力であるといえる。その力を養成するにふさわしい歴史的内容は、現代の課題を考えることができるものだと考えられる。

ここで、現代の課題の例の中として「国際化」が挙げられている。この「国際化」という現代の課題に関連して、第4章の「4. 世界の中の日本」では外国とのかかわりという視点で歴史的内容が選択・配列されていると説明することができる。なお、外国とのかかわりという視点は、特別支援学校学習指導要領解説の中で、近年の国際化を踏まえ、学習に取り入れる必要があると説かれている視点である¹³⁾。

つまり序章は、歴史的内容を理解するための時系列的な視点、歴史的内容を学習する意義、外国とのかかわりという視点の重要性を示し、本教科書における歴史的内容の学習への支援を行っているといえる。

Ⅲ. 歴史的内容に焦点を当てた小単元構成の比較

1. 通常学校用社会科教科書との比較

次に、小単元構成のレベルで通常学校用社会科教科書との比較を行う。

① 「2. 歴史の流れと年代の表し方」

Table 7は、「(1) 歴史の中のかかわり」の導入と終結の文章を抜き出したものである。Table 7からわかるように、導入の文章は、外国とのつながりという視点から日本の歴史を考えていくことを宣言している。また、終結の文章からは、「今後、わが国がどのように外国とつき合」っていくべきかを考えさせたい意図がうかがえる。

ここでは、「(2) 時代の表し方」を取り上げ、『新しい社会 歴史』との比較を行う。本文で、政治の中心地に注目した時代区分と、社会のしくみに注目した時代区分の2つが説明されている点は共通している。両者に差があるのは、2つの時代区分の説明に入る前に置かれている文章である。それらを対比させたのがTable 8である。

本教科書では「貴族の世の中」、「武士の世の中」といった具体的な例を挙げた説明がなされている。

それに対して、『新しい社会 歴史』においてはここで具体例は用いられていない。また、本教科書には「本のはじめにある歴史年表も参考にしましょう」との指示があり、年表の活用が促されている。

② 「3. 日本各地の地理・歴史」

ここでは「九州地方」を取り上げ、『新しい社会 歴史』との比較を行う。「九州地方」の小見出し構成

Table 7 「(1) 歴史の中のかかわり」の導入・終結の抜き出し

導入の文章	これまで日本は、多くの国々とかかわりをもってきました。ここでは、わが国がそれぞれの時期において、外国とどのようなつながりをもち、どのような影響を受けてきたかを考えます。
終結の文章	今日、経済や情報の国際化が進むとともに、国境を越えての行き来も増え、国際交流はいっそうさかんになっています。今後、わが国がどのように外国とつき合い、豊かな21世紀をつくりあげていけるかは、私たち一人ひとりの課題となっています。

Table 8 『くらしに役立つ 社会』と『新しい社会 歴史』における時代区分についての比較

『くらしに役立つ 社会』	『新しい社会 歴史』
「2. 歴史の流れと年代の表し方」 ②時代の表し方	第1章「歴史のとらえ方」 2 歴史の大きな流れを見てみよう
「貴族の世の中」とか「武士の世の中」などといった使われ方もしますが、何に注目するかによって、次のような時代の分け方があります。 (→本のはじめにある歴史年表も参考にしましょう)	歴史の流れを大きく区ざるときに使われるあらわし方です。例えば、下のような時代区分のしかたがあります。

を Table 9に示した。

「九州地方」は、大きく分けて、九州地方全体について書かれている小見出しと、九州地方の各県について書かれている小見出しの2つで構成されている。こ

の構成は他の地方についても同様である。そのうち、歴史的内容の含まれる部分 (Table 9の網掛け部) を取り出し、要約したものが Table 10である。

小見出し「歴史」においては、九州地方と外国の関わりについてのエピソードを中心に、九州地方の歴史が、古代から近代まで古い順に紹介されている。

小見出し「九州地方の各県」においては、九州地方の各県についての説明がなされているが、すべての県について歴史的な記述があるわけではない。歴史的な記述のある県は、「佐賀県」、「長崎県」、「大分県」、「鹿児島県」、「沖縄県」の5つである。これらの県については、「吉野ヶ里」、「臼杵の石仏」、「首里城跡」といった歴史的な遺跡や文化財についての記述と、貿易や戦争といった外国との関わりについての歴史の記述がなされている。一方、「福岡県」、「熊本県」、「宮崎県」には歴史的な記述はなく、これらの県は地理的な記述のみで構成されている。

『新しい社会 歴史』には、地方ごと・県ごとの歴史的内容をまとめた章や節は存在しない。しかし、同

Table 9 「九州地方」の小見出し構成

	小見出し
地方全体について	位置と気候
	人口
	歴史
	産業
	1. 工業
	2. 農業
地方の各県について	九州地方の各県
	1. 福岡県 (県庁所在地は福岡市)
	2. 佐賀県 (県庁所在地は佐賀市)
	3. 長崎県 (県庁所在地は長崎市)
	4. 大分県 (県庁所在地は大分市)
	5. 熊本県 (県庁所在地は熊本市)
	6. 宮崎県 (県庁所在地は宮崎市)
	7. 鹿児島県 (県庁所在地は鹿児島市)
	8. 沖縄県 (県庁所在地は那覇市)

Table 10 「九州地方」の歴史的内容の要約

小見出し	歴史的内容の要約	
歴史	<ul style="list-style-type: none"> 九州は、古くから日本と中国大陸・朝鮮半島との交流の窓口だった。 古代に大陸から米作りが伝わり、佐賀県付近の遺跡から早くに農耕生活が始まった。 大和政権 (朝廷) の時も外交上の重要な地域だった。 九州を治めることと外国との窓口のために福岡県に大宰府がおかれる。 鎌倉時代には、北九州の武士が2度にわたり外国の軍隊の侵入を防ぐ。 江戸時代にキリスト教が禁止されると、長崎県と熊本県で島原の乱がおこり、鎖国の大きな原因となる。 江戸時代末期には、薩摩藩 (鹿児島県) の西郷隆盛らが明治維新を指導し、日本を近代国家にした。 明治時代には、福岡県の筑豊などで掘り出された石炭を使い、製鉄、機械、化学などの工業が発達し、北九州工業地帯ができた。 	
九州地方の各県	2. 佐賀県	<ul style="list-style-type: none"> 古くから米づくりがさかん。 弥生時代最大級の集落遺跡である「吉野ヶ里」がある。 西部の有田町を中心とした磁器、北部の唐津市の陶器づくりは長い歴史をもつ。 <p>写真 吉野ヶ里遺跡</p>
	3. 長崎県	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代には、オランダ・中国との貿易が行われ、西洋文化が日本に入る唯一の窓口だった。 佐世保市には明治時代から軍港があり、今も自衛隊やアメリカ軍基地がある。 1945 (昭和 20) 年 8 月 9 日にアメリカ軍によって「原子爆弾」が落とされ、広島とともに原爆被災地となった。
	4. 大分県	<ul style="list-style-type: none"> 約 20 年前に地域活性化の代名詞となる「一村一品運動」をおこした。 国宝の「臼杵の石仏」をはじめ、文化財が多い。 <p>写真 臼杵の石仏</p>
	7. 鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> 古くから交易がさかん。 16 世紀にポルトガル人が種子島に鉄砲をもたらす。 イエズス会のフランシスコ・ザビエルが鹿児島に来てキリスト教を伝える。
	8. 沖縄県	<ul style="list-style-type: none"> 明治時代に日本に編入される。 日本に編入される前は、琉球王国という独立国だった。 太平洋戦争末期には、アメリカ軍が沖縄に上陸し、多くの犠牲者を出した。 戦後はアメリカの管理下におかれるが、1972 (昭和 47) 年に日本に復帰した。 世界遺産となった「首里城跡」がある。 <p>写真 首里城</p>

様の歴史的内容を扱っている箇所はある。そこで、「九州地方」と同様の歴史的内容を扱っている『新しい社会 歴史』の章・節を抜き出し、Table 11にまとめた。

Table 11から分かるように、本教科書の「九州地方」で取り上げられている歴史的内容のほとんどは、『新しい社会 歴史』でも扱われているものである。しかし、本教科書の「九州地方」と『新しい社会 歴史』とでは、同様の歴史的内容を扱っている場合でも、異なる選択原理・配列原理が働いている。『新しい社会 歴史』が日本の歴史を理解するために各地方、各県の歴史を取り上げているのに対し、本教科書の「九州地方」では、あくまで九州地方やその各県を理解するために、九州に関わらない歴史は排除し、九州に関わる歴史だけが選択されている。

③「4. 世界の中の日本」

ここについては、歴史的内容が扱われている「(1) 歴史の中のかかわり」と「(2) 国際社会のしくみ」を取り上げ、『新しい社会 歴史』との比較を行う。同様の歴史的内容を扱っている『新しい社会 歴史』の章・節を抜き出してまとめたものがTable 12である。

Table 12から分かるように、本教科書の「(1) 歴史の中のかかわり」、「(2) 国際社会のしくみ」では、『新しい社会 歴史』と同様に、年代順に日本の歴史が配列されていることが分かる。ただし、『新しい社会 歴史』と完全に一致しているわけではなく、「古代」、「中世」、「近世」、「近代」、「現代」に該当する日本の歴史を部分的に取り扱っている。ここでの歴史的内容は、先述した外国とのつながりを理解させることができるかどうかという視点で選択され、年代順に配列されていると推測できる。

2. 相違の指摘

以上で、本教科書の歴史的内容を扱っている小単元の構成を通常学校用社会科教科書『新しい社会 歴史』と比較した。それにより明らかになった本教科書と『新しい社会 歴史』の違いを二点指摘する。

一点目は、本教科書は『新しい社会 歴史』に比べて、具体的・個別的に内容が選択されていることである。「2. 歴史の流れと年代の表し方」では、『新しい社会 歴史』にはない具体例によって時代区分の説明がなされていた。また、「3. 日本各地の地理・歴史」

Table 11 「九州地方」と『新しい社会 歴史』の対応

『くらしに役立つ 社会』 「九州地方」		『新しい社会 歴史』
歴史		第2章 「古代までの日本」 1節 文明のおこりと日本の成り立ち 2節 古代国家の歩みと東アジア世界 第3章 「中世の日本」 2節 東アジア世界とのかかわりと社会の変動 第4章 「近世の日本」 2節 江戸幕府の成立と鎖国 第5章 「開国と近代日本の歩み」 1節 欧米の進出と日本の開国 2節 明治維新
九州地方の各県	2. 佐賀県	第2章 「古代までの日本」 1節 文明のおこりと日本の成り立ち 第4章 「近世の日本」 1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一
	3. 長崎県	第4章 「近世の日本」 2節 江戸幕府の成立と鎖国 第6章 「二度の世界大戦と日本」 3節 第二次世界大戦と日本
	4. 大分県	該当箇所なし
	7. 鹿児島県	第4章 「近世の日本」 1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一
	8. 沖縄県	第5章 「開国と近代日本の歩み」 2節 明治維新 第6章 「二度の世界大戦と日本」 3節 第二次世界大戦と日本 第7章 「現代の日本と世界」 1節 戦後日本の発展と国際社会

Table 12 「(1) 歴史の中のかかわり」, 「(2) 国際社会のしくみ」と『新しい社会 歴史』の対応

『くらしに役立つ 社会』		『新しい社会 歴史』
(1)歴史の中のかかわり	8～9世紀	第2章「古代までの日本」 2節 古代国家の歩みと東アジア世界
	13世紀	第3章「中世の日本」 1節 武士の台頭と鎌倉幕府 2節 東アジア世界とのかかわりと社会の変動
	16世紀	第4章「近世の日本」 1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一
	17世紀	第4章「近世の日本」 2節 江戸幕府の成立と鎖国 3節 産業の発達と幕府政治の動き
	19世紀	第5章「開国と近代日本の歩み」 1節 欧米の進出と日本の開国
	20世紀	第6章「二度の世界大戦と日本」 3節 第二次世界大戦と日本
(2)国際社会のしくみ		第7章「現代の日本と世界」 1節 戦後日本の発展と国際社会

の「九州地方」では、九州の地方や県を理解するのに相応しい個別的な歴史が選択されていた。このような具体性・個別性は『新しい社会 歴史』にはみられないものである。

二点目は、本教科書は『新しい社会 歴史』に比べ、教材の利用の自由度が高くなるように構成されていることである。本教科書の「3. 日本各地の地理・歴史」の各見出しには番号が振られておらず、どの地方から学ぶのかという順序や、どの地方を学ぶのか、あるいは学ばないのかという取捨選択が教師や学習者に委ねられていると考えられる。これに対して『新しい社会 歴史』では、歴史的内容が年代順に配列され、単元・小単元・見出しといったすべてのレベルにおいて番号が振られている。そのため、本教科書の「3. 日本各地の地理・歴史」と比べ、製作者の想定する学習の流れがより明確に示されているといえる。

3. 学習困難の想定とその手立て

以上の違いから、本教科書が想定している学習困難とその手立てを検討する。

一点目の違いからは、本教科書が具体的・個別的でない歴史的内容の学習には困難が生じると想定していることが考えられる。歴史的内容はそもそも抽象的で、根本的に学習者との間に距離がある。そこに生じる困難を回避するために、内容選択の際に、より具体的で個別的な歴史的内容を選択していると考えられる。「3. 日本各地の地理・歴史」の中には、各地方、各県に特有で一般性の低い歴史的内容が多く含まれている。こういった個別性・具体性が、抽象的になりがち

な歴史的内容を実生活と結び付けて学習できるように支援している。

二点目の違いからは、地方や県についての内容の提示順を固定すると、教科書が使用される地方・県によって、内容に対する個別性や具体性に差が生まれ、学習困難が生じると想定されていることが考えられる。この困難を克服するために、本教科書の「3. 日本各地の地理・歴史」では、各見出しに番号が振られていない。この手立てによって、それぞれの学習者にとっての個別性・具体性に合わせて教科書を効果的に用いることができるようにしているのである。

IV 歴史的内容に焦点を当てた見開き構成の比較

1. 通常学校用社会科教科書との比較

ここでは、本教科書の第4章の小単元のうち、「(1) 歴史の中のかかわり」を取り上げ、その中の「16世紀」に書かれている歴史的内容を、『新しい社会 歴史』で同じように16世紀について書かれている部分と比較しながら分析する。本教科書の「16世紀」の内容と、それに対応する『新しい社会 歴史』の見出しを抜き出したものが Table 13である。本教科書については関連する本文を全てそのまま抜き出している。

同様の歴史事象に対する説明にどのような差があるかを具体的に比較するため、16世紀の歴史事象の中でも特に「織田信長」と「鉄砲の伝来」を取り上げて比較したい。

「織田信長」について、本教科書では、Table 13にあるとおり、「戦国時代とよばれる激動の時代から、織田信長・豊臣秀吉らによって統一政権が誕生する時代です。」という一文のみで説明されている。それに対して『新しい社会 歴史』では、「織田信長」についての記述だけでおよそ1ページが割かれている。本教科書では織田信長は豊臣秀吉と並列で示されるに留まっているが、『新しい社会 歴史』では、織田信長がどのように勢力を広げ、どのような政治を行ったのかについてまで説明されている。

「鉄砲の伝来」について、本教科書では、Table 13からも分かるように、一度本文中で「彼らが伝えた鉄砲やキリスト教は、日本の社会に大きな影響を与えました。」と、日本社会に与えた影響について述べた後、さらにコラムのような形で鉄砲の伝来が与えた影響についての説明している。それに対して『新しい社会 歴史』では、以下のように鉄砲の伝来について説明されている。

1543年、ポルトガル人を乗せた中国の船が種子島（鹿児島県）に流れ着きました。この船は、中国人の倭寇のものでした。このとき日本に鉄砲が伝えられました。鉄砲は戦国大名に注目され、各地に広まりました。堺（大阪府）や国友（滋賀県）などでは、刀鍛冶の職人によって鉄砲がつくられるようになりました。鉄砲の普及は、戦い方の変化と築城技術の向上をもたらし、全国統一の動きを促進しました¹⁴⁾。

本教科書が鉄砲の伝来が日本の社会に与えた影響を短い文章で簡潔に説明しているのに対し、『新しい社会 歴史』は、鉄砲の伝来について、より詳しく説明し、最終的に「全国統一の動き」を促したということにまで言及している。

2. 相違の指摘

Table 13から分かるように、同じ16世紀を扱っているといっても、本教科書と『新しい社会 歴史』とは、選択されている内容が異なる。『新しい社会 歴史』は政治や文化、外交などの様々な視点から16世紀に関する歴史的内容が選択されている。それに対して、本教科書で選択されている歴史的内容は、外国から日本が影響を受けたことを示すものに絞られている。

また、同様の歴史事象についてもそれぞれの教科書で説明のされかたが異なる。本教科書は、外国とのかかわりという視点に立ち、日本の社会が外国とのかかわりでどのように影響を受けたのかを説明することに重点が置かれ、それ以外は排除する記述になっている。それに対して、『新しい社会 歴史』は、さまざまな視点から日本の歴史を学問的に説明することを重視しており、本教科書に比べて複合的で詳細な記述がなされている。

3. 学習困難の想定とその手立て

本教科書が一つの視点に絞って16世紀を描いていることから、一つの時期に対する視点が複数存在することによる学習困難が想定されていると考えられる。

Table 13 「(1) 歴史の中のかかわり」の「16世紀」と『新しい社会 歴史』の対応表

『くらしに役立つ 社会』 第4章 日本の地理と歴史 (1)歴史の中のかかわり ※全文引用	『新しい社会 歴史』 第4章「近世の日本」 1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 ※見出しのみ引用
<p>16世紀 戦国時代とよばれる激動の時代から、織田信長・豊臣秀吉らによって統一政権が誕生する時代です。 この頃、アジアとの貿易を求めていたヨーロッパ人は、インドや中国などに進出していました。 1543年、ポルトガル人が鹿児島県の種子島に上陸しました。これが、日本の土を踏んだ初めてのヨーロッパ人です。その後、スペイン人なども来航しましたが、彼らが伝えた鉄砲やキリスト教は、日本の社会に大きな影響を与えました。</p> <p>■鉄砲の伝来 鉄砲の伝来により、刀による戦いから、鉄砲隊による集団的な戦いへと、戦いへの仕方が大きく変わっていききました。</p> <p>■キリスト教の広がり 人間の平等を説いたキリスト教の教えは、当時、生活に苦しんでいた多くの人々に急速に広まりました。</p>	<p>3 ヨーロッパ人との出会い 鉄砲の伝来 キリスト教の伝来と南蛮貿易 キリスト教の広まり</p> <p>4 織田信長・豊臣秀吉による統一事業 織田信長の統一事業 豊臣秀吉の統一事業 宣教師の追放</p> <p>5 兵農分離と朝鮮侵略 検地と刀狩 海外貿易と朝鮮侵略</p> <p>6 桃山文化 豪華で壮大な文化 ヨーロッパ文化の影響</p>

複数の視点から一つの時期が描かれることによって、学習者に生じかねない混乱を、本教科書は外国からの影響という視点に絞ることで回避している。

また、本教科書は一度「鉄砲の伝来」や「キリスト教の広がり」について記述した後、再び同じ内容をコラム的に記述している。これは、「鉄砲の伝来」と「キリスト教の広がり」という、16世紀における重要な外国からの影響を繰り返し提示することで、学習者の理解を促そうという手立てであると思われる。

V 小括—歴史的内容における学習困難と仮説との関連

本稿では、本教科書で取り扱っている歴史的内容と、『新しい社会 歴史』と比較考察をした。大きな違いは、大きく見れば、通史的な構成では、同様であるが、本教科書では、地理的・公民的内容と結びつけ、特徴的な時代を取り上げ、大きく歴史を眺めるようにしてあるのに対して、『新しい社会 歴史』はほぼどの時代も取り上げ、歴史全体を満遍なく見通せるようにしている。

この違いには、特定の視点による現在と結び付けた歴史の学習と、独立し、網羅的に配列した歴史の学習という歴史学習の違いによっている。

ここで関連する仮説は「(1) 容易性」と「(2) 決断性」である。歴史的内容を地理的・公民的内容と関連付けることは、「(1) 容易性」の支援だと考えられる。歴史的内容は、年代によって程度の差はあるが、基本的に学習者の現在の生活と時間的な隔りがある。その隔りがある歴史的の内容の抽象性を高め、学習困難を生む可能性がある。しかし、本教科書のように、歴史的内容を現在学習者が生活している場所（地理）や社会のシステム（公民）と関連付けることによって、歴史的内容の抽象性を緩和できるのではないだろうか。

歴史的内容を特定の視点に絞って選択することは「(2) 決断性」の支援だと考えられる。網羅的に歴史的内容を選択・配列することは、歴史的内容の量を膨大にするため、学習者がそれらを通して何を理解すればよいのかという目標を掴みにくく、歴史的内容それ自体を受け止めることに終始してしまう可能性がある。膨大な歴史的内容を受け止めきれないという困難が生じる可能性もある。本教科書のように、歴史的内容の学習に特定の視点を与えることは、歴史的内容を通して何を学ばばよいのかということを明確にし、そ

ういった学習困難を克服すると考えられる。

一つの時期を特定の視点に絞って内容を選択することや、重要な内容を繰り返し記述することは、「(1) 容易性」と「(2) 決断性」に対する支援であると考えられる。

以上のようにして、本教科書は歴史的内容の学習困難の克服を目指しているといえる。

注

- 1) 大南英明編集 (2007), p.77.
- 2) 大南英明編集 (2007), p.110.
- 3) 大南英明編集 (2007), p.31.
- 4) 大南英明編集 (2007), p.114.
- 5) 平成21年3月告示『特別支援学校学習指導要領』
- 6) 前掲5, 一部抜粋
- 7) 平成22年11月告示『中学校学習指導要領』
- 8) 平成20年9月『中学校学習指導要領解説社会編』
- 9) 平成22年11月告示『中学校学習指導要領』
- 10) 平成21年3月告示『特別支援学校学習指導要領』
- 11) 平成22年11月告示『中学校学習指導要領』
- 12) 大南英明編集 (2007), p.7.
- 13) 特別支援学校高等部学習指導要領解説において、外国とのかかわりについて「外国と我が国との関係について考え」ることの大切さを指導することも必要だと書かれている。
- 14) 五味ら (2013), p.96.

文献

- 池野範男・宛 彪・岡田了祐・渡邊 巧・能見一修・横山千夏・若原崇史 (2014) 学習困難の研究 (1) —特別支援教育の使命と教科教育の在り方—特別支援教育実践センター研究紀要, 12, 17-24.
- 大南英明編集 (2007) くらしに役立つ 社会, 東洋館出版社.
- 五味文彦・戸波江二・戸ヶ崎典隆 (2013) 新しい社会 地理, 東京書籍.
- 五味文彦・戸波江二・戸ヶ崎典隆 (2013) 新しい社会 歴史, 東京書籍.
- 五味文彦・戸波江二・戸ヶ崎典隆 (2013) 新しい社会 公民, 東京書籍.

(2015. 1. 29受理)

An Analysis of the Social Studies Textbooks for Special Needs Schools “Useful for Everyday Living” (II) Contents of History: A Study of Learning Difficulties Part 3

Chinatsu YOKOYAMA

Graduate School of Education, Hiroshima University

Takumi WATANABE

Graduate School of Education, Hiroshima University

Kazuyoshi NOMI

Graduate School of Education, Hiroshima University

Ryosuke OKADA

Graduate School of Education, Hiroshima University

Takashi WAKAHARA

Graduate School of Education, Hiroshima University

Biao WAN

Graduate School of Education, Hiroshima University

Norio IKENO

Graduate School of Education, Hiroshima University

This research is the preliminary study to aim at educational new creation especially which are the mission of the special support education, “everyone can know and everyone can learn.” to restore an idea of the original education. In this research failure is in the educational state everyone has, not only the child who needs support especially. Our research team is thinking a possibility that all children fail and learning difficulty to have, supposes that it will be necessary to create the states that all children can learn without a trouble in a class and the activity of the school and push forward a study.

This paper is the third consideration. It at first confirms the purpose of a study and the hypothesis, compares the Social Studies Textbook for the Special School “Useful for Everyday living” and social studies textbooks for “usual” middle school focused on historical contents and considers the validity of the research hypothesis.

As a result of consideration, we found independent with learning of the history that it joined together now by the specific viewpoint, and a difference of the history learning called the learning of the history that we arranged cyclopedically became clear. Learning of the history has life as of one of a learner and time difference basically. The difference makes the abstractness of historic contents it and may produce learning difficulty. However, we can devise it by connecting historic contents with a place (geography) and a social system (citizen) that a learner lives like this textbook now to relax the abstractness of historic contents.

Key word: textbook for special needs schools, social studies, history, learning difficulty